

## 児童の歩道橋利用における防犯の研究

### 歩道橋における不審者の行動特性

#### Study on crime prevention for children using footbridge

#### Characteristics of the person acting doubtfully in footbridge

○岩崎裕弥<sup>1</sup>, 牟田聡子<sup>2</sup>, 八藤後 猛<sup>2</sup>

\*Yuya Iwasaki<sup>1</sup>, Satoko Muta<sup>2</sup>, Takeshi Yatogo<sup>2</sup>

Abstract: The purpose of this research is to study the characteristics of crime in footbridge and its countermeasures for the purpose of crime prevention measures for children. It is concluded that according to the information of person acting doubtfully, each municipality, the following was clarified. The characteristics of person acting doubtfully in footbridge were body contact, show genitals, and take a picture in hiding occurred. The characteristics of the structure of the footbridge, which is presumed to have the person acting doubtfully information, the surrounding environment shows that it is characterized by "the eyes from the surroundings" and "ease of accessibility".

### 1. 研究背景

近年、少子化による学校の統廃合や老朽化、景観を損なうなどの理由から歩道橋が撤去され、減少傾向にある。都道府県単位で撤去を明示しているのは東京都と静岡県のみ。他は 25 道府県が長寿命化・修繕計画を立案している。このことから、長寿命化・修繕を掲げる自治体が比較的多い。

そうした中で、不審者への対応策として通学路から歩道橋を外す、目隠し板を撤去し見通しを良好にするなどが行われていた。よって、歩道橋が不審者に対して本当に危険な場所であるかを調査した。また、文献調査の際に、犯罪が起こりやすい場所の特徴として「見えにくさ」、「入りやすさ」<sup>1)</sup>の 2 つがあげられていたが、その実態把握し、不審者との関係を導きだし、またにある歩道橋の安全性を評価することを目的とする。

### 2. 調査方法

都道府県警および各自治体が発信している不審者情報から、「歩道橋」が含まれる情報を収集し、そのデータを比較、分析する。また、歩道橋以外の不審者情報も収集し、歩道橋の情報と比較して特色や傾向を導く。

歩道橋が含まれる不審者情報は、109 件のデータが収集され、それをを用いて比較する。さらに歩道橋以外の事案について、地域差が生じないように各都道府県庁所在地の不審者情報を新しいものから最大 50 件程度、1055 件のデータを収集し比較した。

### 3. 調査結果・考察

#### 3-1) 時間帯別比較 (Fig1.)

事案の発生時間を 3 時間単位で区切り、その時間帯別の不審者情報に現れる差を比較した。歩道橋が含まれる不審者情報では、15 時以降 18 時までの目撃が最

も多いが、それに次いで 6 時以降 9 時までの目撃が多い。一方で、歩道橋以外の不審者情報では、同様に 15 時以降 18 時までの目撃が最も多く、それ以外の時間帯とは 2 倍以上多くなっている。

よって、歩道橋を含む不審者情報では、下校時間帯だけではなく、登校時間帯にも事案が発生している。

#### 3-2) 事案種別比較 (Fig2.)

発生した事案を、声掛、接触、追跡、露出、撮影などの 13 項目で種別し、発生した事案種別の数に現れる差

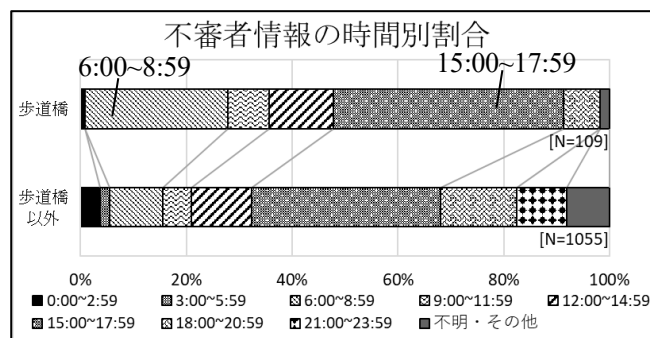


Fig1. Time when a suspicious person was witnessed

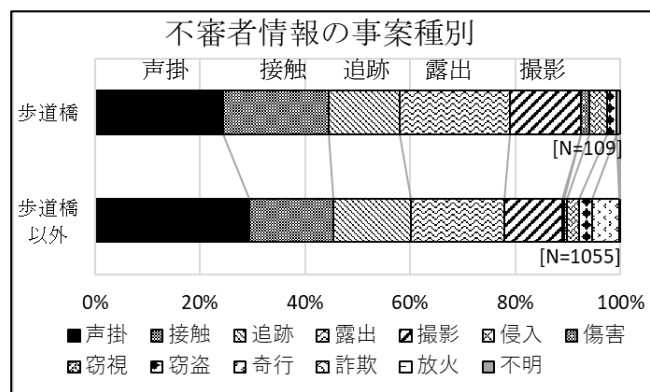


Fig2. What a suspicious person performed

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

を比較した。歩道橋における不審者情報では、声掛、接触、露出がそれぞれ約 26%程度と同等の割合で発生している。一方、歩道橋以外の不審者情報では、声掛事案が 32%程度と最も多く、次いで接触、追跡、露出がそれぞれ約 16%程度と同等の割合で発生している。

よって、歩道橋では接触、露出、撮影といった行為がそれ以外の場所と比較して多く発生している。

### 3-3) 被害者性別比較 (Figre3.)

被害者の性別で比較した結果、歩道橋・歩道橋以外のどちらも女性が被害者となる割合が約 65%程度と非常に高く、大きな差は見られなかった。

### 3-4) 文章解析比較 (Figre4.) (Figre5.)

発生した事案の内容を、文章解析ソフト「KH Coder」で解析した。なお、不審者情報に記載された文章では関連性が導きづらいので、「いつ、誰がどこで、誰に何をされた」という一定のフォーマットをつくり、それに当てはめた文章を統計処理した。

文章中に登場した言葉の頻度として、犯行場所や不審者の性別、被害者の性別、事案の内容を示すものが多いことがわかる (Table1.)。また言葉のつながりは、どちらも共通して「男」と「犯行場所 (歩道橋・路上)」が密接につながり、そこから被害者の年代や性別、目撃時間帯を示すものなどにつながった語群が中心に存在している。その中心語群から各事案内容を示す語群につながり、それぞれの特色を示す単語が結びつく。とはいえ、歩道橋を含む不審者情報では、3-1) で示す「登校」がある他、3-2) で示すように事案の発生割合がどれも均等で 6 語群がある。一方、歩道橋以外の不審者情報では、3-2) で示すように声掛の発生頻度が高く、それに次いで接触、露出、追跡と続く。そのため語群に声掛、接触、露出が見られ、「後ろ」や「後」といった追跡に関係する単語も出現する。

### 4. まとめ

歩道橋を含む不審者情報と歩道橋以外の不審者情報に表れた差は「見えにくさ」と「入りやすさ」の 2 つに示される。よって、安全性の評価において「見えにくさ」と「入りやすさ」の具体的な指標を作成することが必要である。

### 5. 参考文献

- [1] 著・小宮信夫「写真でわかる世界の防犯」, 出版・株式会社 小学館, 2017/4/25
- [2] 日本不審者情報センター合同会社, 「リアルタイム不審者情報」, <https://this.kiji.is/-/units/133089874031904245>

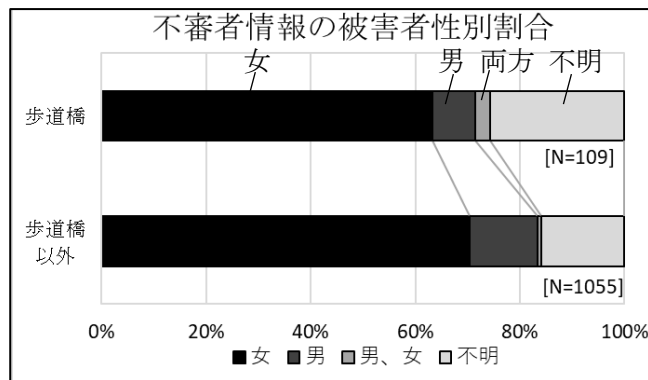


Figure3. Sex of the person who witnessed the suspicious person

Table1. Frequently occurring words

頻度順	歩道橋	歩道橋以外
1	歩道橋 (106)	男 (991)
2	男 (101)	路上 (451)
3	児童 (46)	女子 (414)
4	女子 (43)	声 (344)
5	小学生 (30)	小学生 (266)

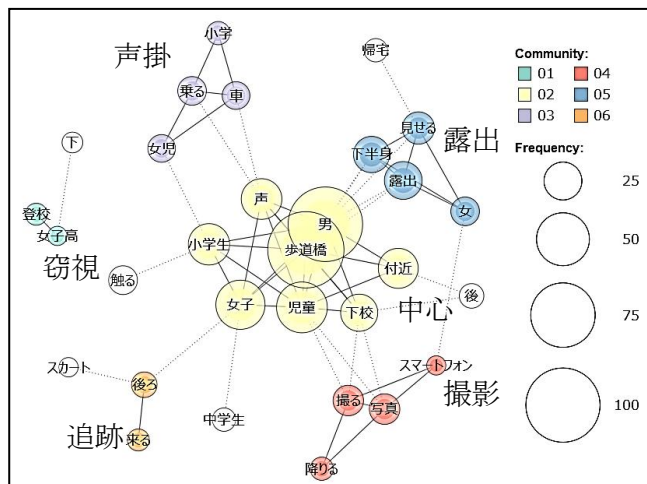


Figure4. Connections of words related to suspicious person (Footbridge)

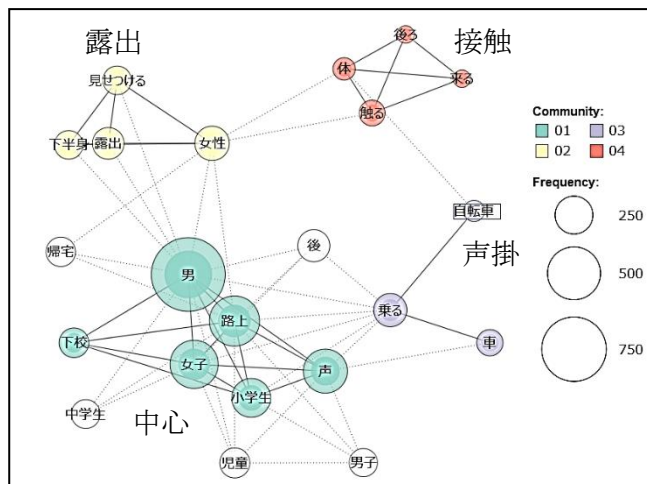


Figure5. Connections of words related to suspicious person (Other than)